

新出の松江城天守古写真

松江城天守の往時の姿を知る手がかりの一つに古写真があります。平成30年(2018)3月刊行の『松江市史』別編1「松江城」によると、明治27年(1894)までの松江城天守を写した古写真は4枚が残るのみです。

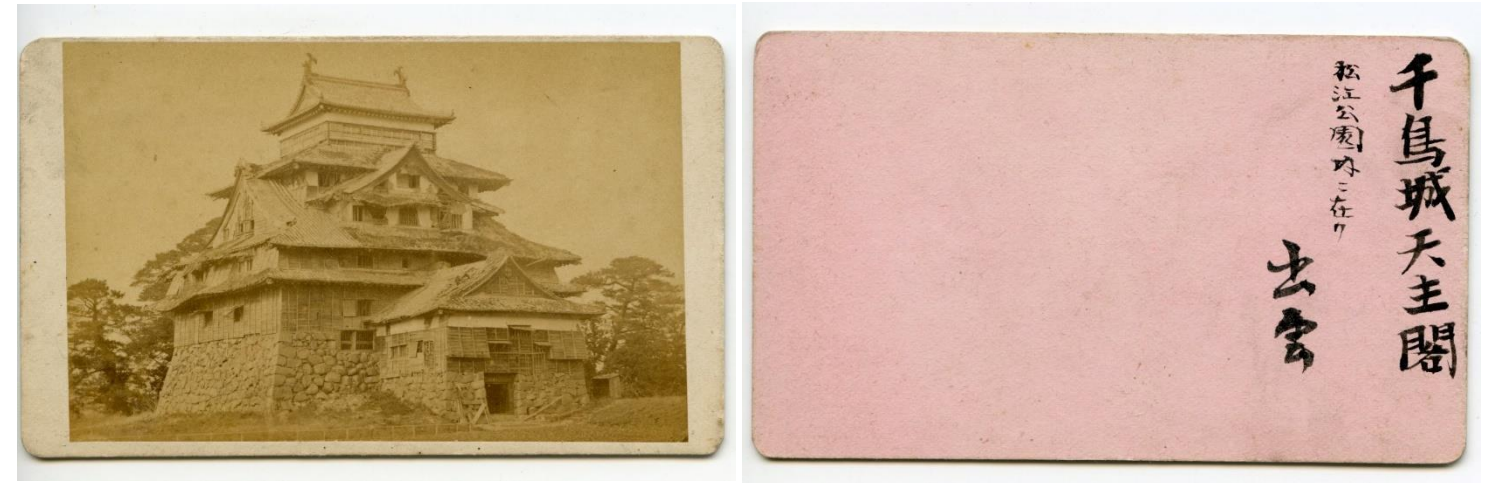
このうち、屋根や壁など複数箇所が崩れた松江城天守を写した古写真(写真A)は明治27年の大修理前の撮影と推定されていますが、これと酷似した古写真を平成31年(2019)3月に新たに確認しました。

両写真とも附^{つけ}櫓^{ぐら}の棟^{むね}や天守西側の二重目の屋根などが同じように大きく崩れていますが、展示の古写真では天守南側の入母屋破風の東側屋根部分が崩落するなど荒廃が進行しています。しかし、天狗^{てんぐ}の間と呼ばれる天守の5階部分は屋根や壁、窓がきれいに整えられていて、ほかにも修理された箇所が確認できます。

新たに確認した古写真は、明治27年の大修理の様子を写したと考えられ、記録がほとんど残っていない明治の大修理を知る資料として貴重な写真だといえます。



平成31年3月に新たに確認した松江城天守古写真〔推定：明治27年6月1日から同年9月30日の間の撮影〕



松江城天守古写真 縦6.0 cm、横9.3 cm／鶏卵紙／個人蔵

- ・台紙は縦6.3 cm、横10.6 cm、厚さ1mmの厚紙(いわゆる手札判〔約10.5 cm×8.0 cm〕程度のサイズ)
- ・台紙の裏面は淡いピンク色で、「千鳥城天主閣／松江公園内ニ在リ／出雲」と墨書あり
- ・推定される撮影時期は明治27年(1894)6月1日から同年9月30日まで(明治の大修理の期間)

参考文献

木下誠 2020「新たに確認した松江城天守古写真ーガラス窓に改修された天狗の間ー」『松江歴史館研究紀要』第8号



既に知られている松江城天守古写真(写真A)〔明治25年3月15日以前に撮影された可能性がある〕

酷似する両写真の比較①附 櫓 つけやぐら

- ・新たに確認した写真では天守付近への侵入を防ぐような柵が設けられている
- ・写真Aでは石垣や壁にツタのようなつる植物が張り付いているように見えるが、新たに確認した写真にはみられない（きれいになっている）
- ・新たに確認した写真では、棟と西側（正面左側）屋根の大部分で瓦が取り除かれて野地板が姿を現しているように見える（瓦や土が地面に落とされている模様）



既に知られている写真（写真A）



新たに確認した写真

酷似する両写真の比較②天守西側

- ・写真Aでは石垣や壁にツタのようなつる植物が張り付いているように見えるが、新たに確認した写真にはみられない（きれいになっている）
- ・新たに確認した写真では二重目の屋根の前方部が崩れて一重目の屋根も波打つように崩れているように見える（二重目の屋根の野地板が姿を現しているように見える）
- ・写真Aでは大きな入母屋破風の降棟の一部が崩落して穴が開いているように見えるが、新たに確認した写真では修理したのか穴が見えなくなっている



既に知られている写真（写真A）



新たに確認した写真

酷似する両写真の比較③天守南側

- ・新たに確認した写真では入母屋破風の3階部分の屋根が波打つように崩れている。なお、東側（正面右側）部分は崩落して失われ、二重目の屋根が損壊しているように見える。



既に知られている写真



新たに確認した写真

酷似する両写真の比較④天守5階（天狗の間） てんぐ

- ・写真Aでは壁の漆喰の一部に剥落が見られ、屋根の東側（正面右側）の鬼瓦が崩落したのが見えなくなっている
- ・新たに確認した写真では、屋根、壁などがきれいに整えられている
- ・窓について、写真Aでは高欄（手摺）の外側に雨戸があるように見えるが、新たに確認した写真では高欄（手摺）の内側に窓が仕組まれたように見える（ガラス窓に改修されたとみられる）



既に知られている写真



新たに確認した写真



（参考）明治40年代から大正時代とされる写真



左の写真の天守5階（天狗の間）
※新たに確認した写真と同じくガラス窓に見える